

【主催事業】

聖徳大学楽習フェスタ2010～第12回聖徳大学生涯学習フォーラム～

日 時：平成22年6月19日（土） 13：15～16：30

平成22年6月20日（日） 10：00～16：00

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター

主 催：聖徳大学生涯学習研究所

共 催：NPO法人全国生涯学習まちづくり協会

後 援：千葉県教育委員会、松戸市、松戸市教育委員会、全国生涯学習まちづくり研究会
松戸駅周辺にぎやか推進協議会

協 力：新京成電鉄株式会社、株式会社ブルボン、聖徳大学オープン・アカデミー
聖徳大学人文学部生涯教育文化学科、聖徳大学児童学部児童学科児童文化コース
聖徳大学生涯学習研究同好会「りりーず」、

参加者：1日目 210名

2日目 838名（うち、松戸駅西口デッキ特設ステージ会場来場者275名）

生涯学習研究所は、6月19日（土）～20日（日）の2日間、地域と大学の交流、学生と市民の活動発表の機会を創出することを目的に、「楽習フェスタ2010～第12回聖徳大学生涯学習フォーラム～」を開催した。

今回のフェスタは、国の掲げる観光立国施策に注目し、観光によるまちづくりを研究課題に設定した「地域×もてなし」をテーマに行った。

初日は、独自の指導方法で児童、生徒と向き合う教師のグループ・教育技術法則化運動（TOS S）代表の向山洋一さんの講演で幕を開けた。講演の間に、向山さんの提唱する教育技術法則化を実践する4人の教師が模擬授業を行い、そのテンポの良さに、来場者からは感嘆の声があがった。

講演の後、生涯教育文化学科清水英男教授がコーディネーターを務めたシンポジウム「地域×もてなし」を行い、各方面で活躍中のシンポジストにより、子どもたちの地域活動のための、団体、行政、学校の支援のあり方について、熱のこもった議論が繰り広げられた。参加者は皆熱心に聞き入り、質疑応答の際は多くの質問が寄せられ、時間が足りないほどだった。

2日目は、フェスタならではの、お祭りの色彩を濃くした様々なイベントを、生涯教育文化学科の学生が企画し、10号館各所で行った。

特に、学生と企業が「お菓子」を通じてコラボレートした3つの企画が好評を博した。菓子メーカー「ブルボン」の協力によるお菓子の食べ合わせコンテスト、松戸の和菓子屋5店の個性的なまんじゅうの試食、老舗喫茶店「カフェ・ド・カオリ」と共同開発したケ



一キの発表と試食は来場者の人気を集めた。

このほか、SOA体験講座、生涯学習見本市、伝承遊びコーナー、かえっこバザールなども多くの来場者でにぎわった。また、松戸駅西口デッキで行った、学生による吹奏楽コンサート、よさこいソーランの発表は、フェスタに彩りを添えた。

2日間で約1,000人の来場者を集め、来場者とスタッフ、学生の笑顔と笑い声があふれる場として成功を収めることができた。来年度も引き続き、地域との連携を図り、生涯学習研究所の基幹事業として展開していきたい。

